

医師・看護師を大幅に増員し 安全・安心の医療を実現しよう

医師・看護師不足の解消は急務

医師・看護師不足と病院閉鎖が大きな社会問題になっています。医療の現場では、「医師・看護師の退職がとまらない」「産科・小児科がなくなった」「お年寄りが入院できるベッドがない」など、深刻な事態になっています。

長年にわたる政府の医療費抑制策は、患者・国民の負担を増大させ、医師・看護師など医療を担う人材の不足を引き起こしました。国民の命と健康は脅かされ、地域医療は崩壊の危機に直面しています。

医師・看護師などを大幅に増員し、働き続けられる労働条件を確立し、安全・安心の医療・地域づくりを求める運動（「大増員闘争」）が大切になっています。

医師・看護師の大幅増員で、労働条件を改善し、働き続けられる職場づくりが求められています。

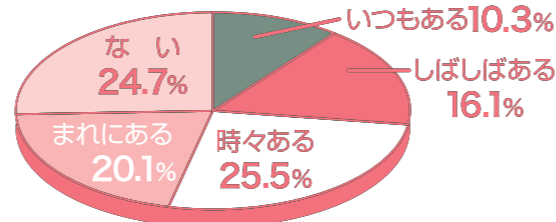
国会請願を採択、運動に広がり

大増員闘争の目的は、「医師・看護師の増員と労働条件の改善で、安全・安心の医療を実現する」ことです。

運動は、大きく広がっています。3年目を迎えた運動は、「医師・看護師など増員署名」が100万筆を超え、自治体決議や国会議員の賛同が広がるなかで、2007年7月5日、第166回通常国会で、私たちの請願が採択されました。「医師・看護師ふやせ！ ストップ医療崩壊！ 10・18中央集会」（2007年10月、5100人）には、全会派の国会議員から賛同・激励が寄せられ、政府も医師確保対策に着手しています。

運動には、多くの若い仲間が参加しています。'08年春闘は、要求を前進させ、運動と組織を飛躍させる絶好のチャンスです。

「職場を辞めたい」と思うこと



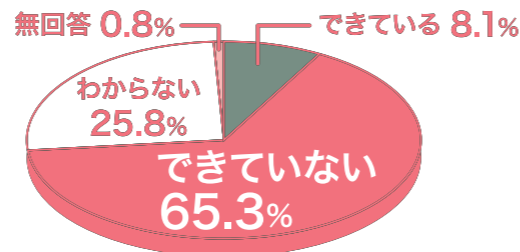
日本医労連「医師の労働実態調査」(1,355人回答/2007年)から

勤務医不足の要因は過酷な労働環境

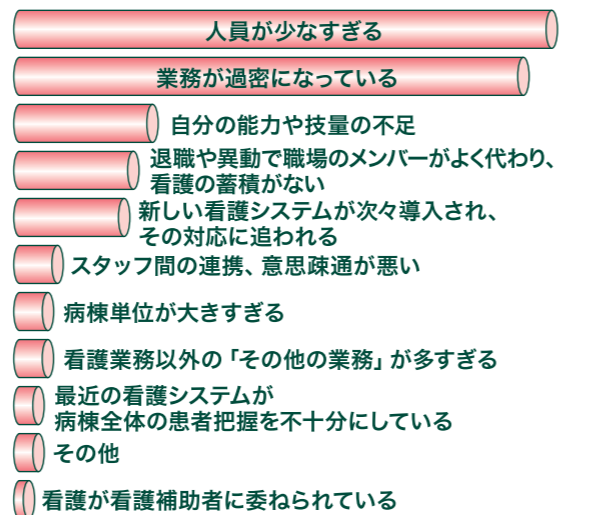
日本病院会調査

「日本病院会の勤務医に関する意識調査」(5,635人回答/2006年)でも、61%の医師が勤務医不足の要因として過酷な労働環境を指摘し、77%の医師が増員を求めている。

十分な看護の提供ができていますか



十分な看護ができていない理由



[注]対象者は、十分な看護が「できていない」と回答した人。
日本医労連看護職員の労働実態調査・単純集計結果から

'08年春闘で何をするのか

第1に、すべての組合で、大幅増員・労働条件改善の要求を出し、働き続けられる職場づくりにとりくみます。

第2に、政府・国会にむけ、医師・看護師などの増員のための「法改正を求める国会請願署名」を広げ、法改正と予算増を迫ります。

第3に、各都道府県に、看護師の就業・定着対策と医師確保対策の強化を求めます。

「法改正を求める国会請願署名」は、100万筆（1組合員10名）を目標に広範な団体・個人にひろげ、地元選出の国会議員への賛同要請、「医師・看護師確保、地域医療確保」の政党政策討論会（2月13日）、国会要請と政府交渉（3月5日）、3月・6月の地方議会への請願・陳情などにとりくみます。5月には、各都道府県・地域で、労働組合・団体が共同して「医師・看護師ふやせ」「ストップ医療崩壊」の総行動（集会、パレード、自治体要請、シンポジウムなど）にとりくみ、社会的アピールをひろげます。

国に対する私たちの要求

- 看護師などを大幅に増員するため、夜勤を月8日以内に規制するなど「看護職員確保法」を改正してください。
- 医師の養成を大幅に増やし、勤務条件の改善をはかるため、医師確保に向けて必要な法律を制定してください。
- 医療・社会保障予算を大幅に引き上げて国民が安心して医療が受けられるようにしてください。

